

# 理事長コラム

社会福祉法人カルディア会 理事長 表 秀孝

ホームページ・コラム No.1ですので、ご挨拶からはじめます。

6月下旬の本来なら梅雨のうっとうしい季節のはずですが、今年は春からの雨不足の天候が続いているのか、時には真夏のような太陽が顔をのぞかせる日もあり、なんだか季節感が後先になったような毎日です。

皆様には社会福祉法人カルディア会の活動に対し、ご理解とお支えを頂いておりますことに心より感謝を申し上げます。

梅雨明けとも思われるような6月12日(日)、「どんぐりフェスティバル」が大勢の皆様の参加の下に盛大に行われました。子どもたちのはじけた笑顔を中心に、太鼓の力強い響きとともに始まった開会、演奏後の子どもたちの太鼓の試演、太鼓の体を揺るがず響きに驚き、心を躍らせた子どもたちの顔、道芸パックマンの軽妙な演技に引き込まれ、みんなが一体となって楽しんだパックマンショー、園庭でのお買い物の屋台、心が浮き立つ1日でした。終了近く南の空を彩った「彩雲」は、子どもたちの楽しい顔がいつまでも続きますようにという、神様からのメッセージだったのかもしれませんが。皆様のお支えによって実現できた、幸せな1日であったと深く心に刻んでおります。カルディア会は障害児と保育園児が、共に生き合うことを保障する園として、上田いずみ園と常田保育園を設立しました。2つの園が互いに交流しながら、一人ひとりの園児が人間として共に生きる心を豊かに育てることに努力してまいりました。

子どもたちのそのような育ちに関わるためには、まず職員が共生の理念を心に高く掲げる必要があります。共生は、子ども相互の関係に止まるものではありません。子どもの世界に共生の実態を創り出すためには、まず園の職員の間で共生の実現させることが求められます。カルディア会では発足当初からこのことに心を砕き、互いの研鑽を高める努力を続けてまいりました。しかし、未だ道遠です。

というよりも、子どもたちからそのことを教えられることの多い日々です。

昨年の5月より、上田いずみ園が梅が丘に引っ越しました。キャンパスが2箇所に分かれる中で、どのようにして園設立の理念を維持するか。日常であった交流を、両園の日々の療育・保育の中に、どのように位置づけるかはまだ模索中です。ただ、日常であった活動が明確に意識化され、両園の交流がかけがいのない出来事として園児の心に刻まれるプログラムになっていることは、両園の職員の成長として評価できることと理事長として喜んでおります。

これからの両園の歩みに、皆様の変わりないご支援をいただけますことをお願いし、あわせて厳しいご教示を賜りますことをご期待し、コラム開設のご挨拶といたします。

2005年6月20日